

Title	整数論ニ於ケル一定理ノ初等的證明ニツイテ
Author(s)	東屋, 五郎
Citation	全国紙上数学談話会. 265 p.189-p.196
Issue Date	1944-09-25
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/75120
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1187. 整數論ニ於ケル一定理ノ初等的 證明ニツイテ

東 屋 五 郎(名大)

a ヲ任意ノ有理整数(以下整数トイヘバ有理整数ノコト), p ヲ a ト素ナル素数トスレバ $a^m \equiv 1 \pmod{p}$ ナル自然数 m が存在シマスガ、 m ノ中最小ナルモノヲ a ノ \pmod{p} ニ関スル指数ト呼ビマス。ソレヲ n トスレバ $n|m$ デアリマス。特ニ $a^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$ デアル故ニ $n|p-1$ 従ツテ $(n, p)=1$ デアリマス。逆ニ任意ニ整数 a ト自然数 n ヲ与ヘタトキニ a ト素ナル素数 p ノ中 a ノ \pmod{p} ニ関スル指数が丁度 n ニ等シクナルヤウナ p が存在スルカト云フニ $|a| > 1$, $n > 2$ ナラバ $a=2, n=6; a=-2, n=3$ ナル場合ヲ除イテ、カ、ル p ガ常ニ存在スルトイフ定理が成立シマス。

コノ定理ハ実ハ C. Chevalley : ガ東大 /
Sur la théorie du corps de classes dans les corps finis et. les corps locaux (1933),
432頁ニ於テ相互律ノ證明ノタメノ補助定理トシテ
證明シテ居リマスガ(尤モソレ大ノ為ナラ p ノ代リ
ニ p ノ巾ヲ取ツテ十分デアリ、従ツテソノ場合ノ証
明ハ非常ニ簡單ニナルコトヲ彌永先生ガ指摘サレマ

シタガ、高木先生、代数的整数論 243 頁ノ定理 2 参照)、ソノ証明ハ透明デハアリマスガ、円分体ノ素「イデヤル」ノ問題ニ迄持ツテ行ツテ居ルノデ、初等的トハ申サレマセン。コヽニソノ初等的ナ証明が得ラレマシタノデソレヲ述ベテミマス。Chevalleyノ証明ト比ベテミマシタ所、証明ノ本質ハ同様デアリマス。

n ヲ自然数、 ε ヲ一般ニ 1ノ原始 n 乗根ヲ表ハストキ同前 n 分多項式

$$(1) \quad \Phi_n(x) = \prod_{\varepsilon} (x - \varepsilon) = \prod_{d|n} (x^d - 1)^{\mu(\frac{n}{d})}$$

ハ $\varphi(n)$ 次ノ整係数(既約)多項式デアリマス。

$n > 2$ ノトキハ ε ハ実ナラザル複素数ナル故 ε ノ共軛複素数 ε^{-1} モ原始 n 乗根デ、 ε^{-1} キ ε ダカラスヲ実数ト看ヘレバ $\Phi_n(x) = \prod_{\varepsilon} (x - \varepsilon) = \prod_{\varepsilon} |x - \varepsilon| = |\Phi_n(x)|$ トナリマスガ、 $\Phi_n(x)$ ハ $x \geq 1$ ニ於テ單調増加、 $x \leq -1$ ニ於テ單調減少函数ヲ表ハシマス。

何トナレバ $1 \leq x < y$ スハ $x < y \leq -1$ ナラバ $|\varepsilon| = 1$ ナルコトカラ $|x - \varepsilon| < |y - \varepsilon|$ 、從ツテ

$$\Phi_n(x) = \prod_{\varepsilon} |x - \varepsilon| < \prod_{\varepsilon} |y - \varepsilon| = \Phi_n(y) \text{ ナル故デアリマス。}$$

補題 1. n ガ 2ヨリ大ナル自然数、 x ガ $|x| \geq 2$ ナル実数ナラバ、 n ノ任意ノ素因数 p ニ對シテ、

$\Phi_n(x) > p$ デアル。但シ $x=2$, $n=6$ ナル場合及び
 $x=-2$, $n=3$ ナル場合ヲ除ク。

証明： 上述ノ $\Phi_n(x)$ ノ 單調性 = ヨリ、 $x = \pm 2$ ナル
 場合ヲヤレバ十分デアルガ、

1) n が平方因子ヲ有シナイ場合

イ) $n = p$ が奇素数ノトキ、 $\Phi_n(x) = \frac{x^p - 1}{x - 1} = x^{p-1} + \dots$
 $+ x + 1$ トナル故 $\Phi_n(2) > \Phi_n(1) = p$, 又 $\Phi_n(-2) =$
 $\frac{2^p + 1}{3}$ ハ $p > 3$ ナラバ $> p$ デアルガ $p = 3$ ノト
 キダケハ $\Phi_3(-2) = 3$. シカシ、 $x < -2$ ナラバ
 $\Phi_3(x) > 3$ デアル。

ロ) n が素数ナラザル奇数ノトキ、 $n = p_1 p_2 \dots p_s$,
 $p_1 > p_2 > \dots > p_s (> 2)$, ($s \geq 2$)ヲ n ノ素因子分
 解トシ、 $n' = p_1 \dots p_{s-1}$ トオケバ (1) カラ容
 易 =

$$\Phi_n(x) = \frac{\Phi_{n'}(x^{p_s})}{\Phi_{n'}(x)} \quad \text{從ツテ} \quad \Phi_n(\pm 2) = \frac{\Phi_{n'}(\pm 2^{p_s})}{\Phi_{n'}(\pm 2)}$$

ヲ得ルガ ζ' ヲ一般 = 原始 n' 乗根トセバ

$$\Phi_{n'}(\pm 2^{p_s}) = \prod_{\zeta'} |\pm 2^{p_s} - \zeta'| \geq (2^{p_s} - 1)^{\varphi(n')} \geq 6^{\varphi(n')}$$

$$\Phi_{n'}(\pm 2) = \prod_{\zeta'} |\pm 2 - \zeta'| \leq 3^{\varphi(n')} \quad \text{トナル故} =$$

$$\Phi_n(\pm 2) \geq \frac{6^{\varphi(n')}}{3^{\varphi(n')}} = 2^{\varphi(n')} > p_1$$

ハ) n が偶数ノトキ、 $n = 2n'$ トオケバ、 n が平
 方因子ヲ有シナイ假定カラ n' ハ、イ), ロ) ノ場
 合ノ n トナル故 $n' = 3$, $-x = -2$ 從ツテ $n = 6$,

$x=2$ の場合ヲ除イテ n の任意ノ素因子 p =
対シ

$$\Phi_n(x) = \Phi_{n'}(-x) > p$$

が成立ツ。

2) n が平方因子ヲ有スル場合

1) n が 2 の巾即チ $n=2^e$ ($e \geq 2$) ナル形ノト

キハ $\Phi_n(x) = x^{2^{e-1}} + 1$ ナル故, $|x| > 1$ ナラ

$$\Phi_n(x) > \Phi_n(\pm 1) = 2$$

2) n が 2 以外ノ素因数ヲ含ムトキ, n の素因

子分解ヲ $n = p_1^{e_1} p_2^{e_2} \cdots p_s^{e_s}$ ($s \geq 1$)

トスレバ $p_1^{e_1-1} p_2^{e_2-1} \cdots p_s^{e_s-1} > 1$. シカル = (1)

カラ容易ニ $\Phi_n(x) = \Phi_{p_1 \cdots p_s}(x^{p_1^{e_1-1} \cdots p_s^{e_s-1}})$

ナル恒等式ヲ得ル故上記 1) の場合ニヨリ

$$\Phi_n(x) > \Phi_{p_1 \cdots p_s}(x) \geq p_i \quad (|x| \geq 2)$$

(証明終)

補題 2. a が整数, p が素数デ、且ツ $p^\nu \parallel a-1$, ($\nu \geq 1$)

トスレバ $p=2$, $\nu=1$ ナル場合ヲ除イテ, $p^{\nu+1} \parallel a^n-1$

デアル、又 n が p ト素ナル自然数ナラバ $p^\nu \parallel a^n-1$

デアル。 ($p^\nu \parallel a-1$ 小ハ $a-1$ の p -成分が p^ν ナルコト)

証明: $a = 1 + b$ トオケバ $p^\nu \parallel b$ デアル。シカラバ

$$a^p - 1 = pb + \binom{p}{2} b^2 + \cdots + \binom{p}{p-1} b^{p-1} + b^p$$

トナルが右辺ノ最初ノ項ハ $p^{\nu+1} \parallel pb$ 、最後ノ項ハ

$p^{\nu} \parallel b^p$ デアリ、ソノ他ノ項ハ明ラカ $= p^{\nu+2}$ デ割り切レル。而シテ $p=2, \nu=1$, ノトキヲ除イテハ、
 $\nu+1 < p\nu$ トナル故 $= p^{\nu+1} \parallel a^p - 1$ ヲ得ル。

次 $= (n, p) = 1$ ノトキ

$$a^n - 1 = nb + \binom{n}{2} b^2 + \cdots + \binom{n}{n-1} b^{n-1} + b^n$$

デアルガ：右辺ノ最初ノ項ハ $p^\nu \parallel nb$ デ、ソノ他ノ項ハ明ラカ $= p^{\nu+1}$ デ割り切レル故 $p^\nu \parallel a^n - 1$ デアル。

補遺3. 整数 a が与ヘラレタトキ素数 p が a ト互ヒ素デ且ツ $a \pmod p$ = 閑スル指数ガ n = 等シイタメノ必要且ツ十分ナル條件ハ、

$$p \mid \Phi_n(a) \text{ 且ツ } p \nmid n$$

ナルコトデアル。

証明： 先ヅ必要條件： $p \mid a^n - 1 = \prod_{d \mid n} \Phi_d(a)$ ナル故

$p \mid \Phi_d(a)$, $d \mid n$ トスレバ、 $a^d \equiv 1 \pmod p$ デアルカラ $d \equiv n$, 従ツテ $d = n$ 即チ $p \mid \Phi_n(a)$, 勿論 $p \nmid n$ デアル。

次ニ十分條件： $p \mid \Phi_n(a)$, $p \nmid n$ トセバ $a^n \equiv 1 \pmod p$ デアルガ、 $a \pmod p$ = 閑スル指数ヲ f トオケバ $f \mid n$ デアル。

今 $p^\nu \parallel a^f - 1$ ($\nu \geq 1$) トオケバ $(\frac{n}{f}, p) = 1$ ナル故上ノ補題スカラ $p^\nu \parallel a^n - 1$ 従ツテ若シ $n > f$ ナ

ラバ $p^{v+1} \mid \Phi_n(a) \cdot (a^f - 1) \mid a^n - 1$ トナリ矛盾スル故
 $n = f$ デアル。

補題 4. a ハ 整数、 p ハ 互素ナル素数デ且ツ $a \not\equiv 1 \pmod p$
 = 商スル 指数ガ f ナルトキ $p \mid \Phi_n(a)$ オルタメノ必要且
 ツ 十分ナル条件ハ、 n ガ $n = p^e f$ ($e \geq 0$) ナル形ニ表
 ハサレルコトデアル。

而シテソノ場合、 $n > f$ 、 $n \neq 2$ ナラバ $p \nmid \Phi_n(a)$
 デアル。

証明: 先ヅ必要条件: $p^e \parallel n$ トセバ $p \nmid f \mid n$ ナル故、
 $p^e f \mid n$ デアルカラ、 $n = p^e f n'$ トオケバ $p \nmid n'$ 。

従ツテ、 $p^v \parallel a^{p^e f} - 1$ トオケバ、補題 2 ヨリ $p^v \parallel a^n - 1$ デアル故、若シ $n > p^e f$ ナラ $p^{v+1} \mid \Phi_n(a) \cdot (a^{p^e f} - 1) \mid a^n - 1$ トナリ矛盾スル。従ツテ $n = p^e f$ 逆ニ十分条件:
 $n = p^e f$ ($e \geq 0$) ナル形デアルトスル。 $e = 0$ 即チ $n = f$ ナラバ、補題 3 カラ $p \mid \Phi_n(a)$ ヲ得ル。ソユデ $e \geq 1$ 即チ $n > f$ ノ場合ヲ考ヘル。

$$p^v \parallel a^{p^{e-1} f} - 1 = \prod_{d \mid f} \Phi_d(a), \quad (v \geq 1)$$

トオケバ、補題 2 = ヨレバ $p = 2, v = 1$ ナル場合ヲ除イテ

$$p^{v+1} \parallel a^{p^e f} - 1 = \prod_{d \mid p^e f} \Phi_d(a)$$

得ル故、ユノニ式ヲ比較シテ、 $p \parallel \Phi_d(a)$ 、 $d \nmid p^e f$ 、

$d \times p^e = f + n d$ が唯一つ存在シナケレバナラナイコトが分カル。コ
ノ d ハ $d = p^e d'$ $d' \nmid f$ ナル形ニ表ハサレルガ、
 $a^d \equiv 1 \pmod{p}$ ナル故ニ、 $f | d = p^e d'$ デナケレバ
ナラナイガ、 $(f', p) = 1$ ナル故、 $f | d'$ 、 従ツテ
 $f = d'$ 、 $d = p^e f = n$ 即チ $p \parallel \Phi_n(a)$ トナル。

$p = 2, v = 1$ ナル場合ハ $f | p-1 = 1$ ナル故 $f = 1$ 、
従ツテ $n = 2^e$ デアルガ、 $e > 1$ ナラバ $4 | a^{2^e} - 1$ ナ
ル故 $v > 1$ トナルカラ $e = 1$ 、即チ $n = 2$ デナケレ
バナラナイ。

コノ場合モ確カニ $2 \mid \Phi_2(a) = a + 1$ デアル。

以上ノ補題ヲ使ツテ、求ムル定理ガ簡單ニ証明サ
レル。

定理、 a ハ $|a| > 1$ ナル整数、 n ハ 2 ヨリ大ナル自
然数トスレバ、 a ト互ヒニ素ナル素数 p ノ中デ、 a
 $1 \pmod{p}$ = 關スル指数ガ丁度 n = 等シクナルヤウ
ナ p ガ少クとも一ツ存在スル。但シ $a = 2, n = 6$ ナ
ル場合及ビ $a = -2, n = 3$ ナル場合ヲ除ク。

證明： 補題 2 = ヨレバ、 $p \mid \Phi_n(a)$ 且ツ $p \nmid n$ ナル
 p ノ存在ヲイヘバヨイワケデアル。ソコデ若シ、然
ラズトスル、即チ $p \mid \Phi_n(a)$ ナラバ $p \mid n$ ガ成立ツト
スル。ソノ p ラトリ $a \not\equiv 1 \pmod{p}$ = 關スル指数ヲ f
トオケバ、 $n > f$ デ、 $n > 2$ デアルカラ、補題 4 =

ヨツテ、

$$n = p^e f, \quad p \nmid \Phi_n(a)$$

デナケレバナラナイ。

シカルニ $f \mid p-1$ ナル故 $f < p$ 従ツテ p ハ n ノ
最大素因数トナル故、 $\Phi_n(a)$ ハ p 以外ノ素因数ヲ有
シナイコトニナリ、結局 $\Phi_n(a) = p$ デナケレバナラナ
イコトニナルガ、コレハ補題 1 ニヨレバ、ニツノ例
外ノ場合ヲ除イテハ不可能デアル。